

MIST学会 会員各位

2023年2月18日土曜日長崎大学医学部記念講堂ならびにポンペ会館に於まして第11回九州MIST研究会を開催いたしました。今回は現地での開催でした。久しぶりの現地開催での研究会担当となり、運営方法をすっかり失念しており、苦勞いたしました。なんとか開催に漕ぎ着けました。ナースコースでは春陽会中央病院手術部看護師の原田亜理沙先生、整形外科寺山星先生にご講演いただきました。原田先生にはいかにして手術の流れをスムーズにしていくのか、術野を常に見て状況判断をする手術脳を養う工夫など講演いただきました。寺山先生は脊椎手術の除圧なのか固定なのか、医師がどのように考えて手術を計画していくのかを、わかりやすく説明していただきました。参加人数はコメディカルおよびナースで51名でした。ナース及び若手医師を対象としたハンズオンコースは71名の参加でした。当初40名を想定しておりましたが、このご時世に置いて少し密な状況でしたが、大盛況でした。

特別講演Ⅰでは亀岡市立病院の成田渉先生に『メタバースによるMIST・骨粗鬆症治療の試み～キャリアの谷間に灯を灯す～』をご講演いただきました。非現実的な話の内容に会員一同圧倒されました。特別講演Ⅱでは社会医療法人信愛会交野病院信愛会脊椎脊髄センターセンター長 上田茂雄先生に『顕微鏡で視認出来た後腹膜の膜構造 LIFを安全に実施するコツ』をご講演いただきました。脳神経外科から見た脊椎、整形外科医に感じて欲しいことなどをご講演していただきました。またショートレクチャを特別企画し、3名の先生に講演いただきました。川崎医科大学 脊椎・災害外科学 准教授 中西一夫先生には「頸椎後方手術におけるゲームチェンジャー(Game Changer)」、洛和会丸太町病院 整形外科 副院長 原田智久先生には「両開き式から片開き式へ！頸椎椎弓形成術30分完遂を目指して」、聖隷浜松病院 院長 補佐 整形外科部長 佐々木寛二先生には「小侵襲の椎体間固定は手術を変える」をそれぞれ講演いただきました。それぞれ20分の短い講演時間ではありましたが、手術に対する熱意が伝わり、できれば60分話して欲しかったとのご意見をいただきました。一般演題は7題発表があり、いずれも素晴らしい内容であり、中には活発な討論も御座いました。Best Presentation AwardはBiportal Endoscopic Spine Surgeryで用いる3つのアプローチ、聖隷浜松病院 整形外科 吉水隆貴先生が受賞されました。総勢54名の医師の参加があり会全体では125名の参加でした。予想以上の参加者で、盛大な会となりましたことをご報告いたします。また共催及び展示等でご協力いただいた関係者の皆様には関係者全員から心よりの感謝の気持ちを述べたいと思います。

次回第12回九州MISTは久留米大学整形外科の横須賀公章先生が会長となり、2023年秋頃(未定)の開催を予定しております。今回以上の皆様の参加をお待ちしております。

第11回九州MIST研究会 会長 長崎大学整形外科 田上敦士

